

■日時

平成30年5月31日（木）午後7:00～午後8:50

■会場

亀岡市役所 市民ホール

■議事

- 1 開会
- 2 住民説明会の報告等について
- 3 今後の取組について
- 4 閉会

■意見交換発言内容

座長 (教育総務課長)	事務局から「住民説明会等の報告」について、平成29年度第2回のブロック協議会以降の地域説明会の内容やいただいた意見と質問について説明させていただいた。皆様から御意見や御質問を承りたい。
委員	6点意見を述べさせていただきたい。 ①対象となる地域の了解が得られていない中で、一方的に「最終案」を決めるのはいかがなものか。 ②かつての亀岡小学校の矢田地域のように、地域の了解が得られない場合、どうするのか。 ③移動前と移動後の学校環境が著しく違う場合は、大規模改修ではなくとも、校区変更前にある程度の是正策を示すべきではないか。 ④他の自治体では、PTAも積極的に関与して、同様のケースで校区の枠組みをなくして、2校で柔軟な通学校の選択制を実現させた例もあるが、なぜそれが出来ないのか。 ⑤それに関連して、中学の部活動なども校区変更の大きな影響を受けるため、校区にとらわれない部活動のあり方を早急に検討しないといけないのではないか。 ⑥この計画を進める間は、教育委員会の担当者や教員の異動も極力避け、継続性をもって取り組んでいただきたい。
座長	ただ今、6つの御意見、御提案をいただいた。これについて事務局から考え方を説明いただきたい。
教育長	1点目について、3月に最終案として2回目の説明会をさせていただいた。反対の意見をいただいたが、一方で、それをしっかり受け止めて取組を進めてほ

	<p>しいという意見もいただいた。100%賛成にはなっていないが、どこかで結論を出さないと子どもたちの不安も出てきている。平成32年4月を実施目標とさせていただいて、様々な課題解決に向けた取組を引き続き実施していきたい。</p> <p>3点目の学校環境について、昨年度に中学校の空調整備を行い、今年度は小学校でも整備していく準備をしている。昭和60年代に建てられた学校については、大規模改修を行う必要があるが、単年度ではできないため数年先までの計画を立てて、トイレ改修や空調整備も併せて取り組んでいきたい。できる限り亀岡市内の小中学校の子どもたちが同じような環境で学べるようにしていきたい。</p> <p>4点目の選択制について、部活動による選択制など選択制をとっている学校は京都府内にもいくつかある。ただ、亀岡市内で実施した場合、例えば育親中学校区の生徒が亀岡中学校へ通う場合など、地理的条件から通学手段の確保ができず、平等性が担保できない。亀岡市の地理的条件では実施するのは難しいのではないかと。安詳小学校と詳徳小学校の選択制も提案いただいていたが、地理的にも安詳小学校に近い地域の児童が多いことから、安詳小学校に集中してしまうと過密解消ができないということも想定できるため、当面通学区域の変更で対応したい。</p>
委員	<p>子どもの多感な時期に卒業で2つの中学校に分かれて進学することで友達との別れを経験させることが親として心苦しい。これからの子どもたちが、2小1中の小中一貫で学べることには前向きに捉えている。今通学区域の見直しで、子どもも親も様々な思いはあると思うが、しっかりと受け止めて、子どもの心の変化や安全対策を一緒に考えていきたい。</p>
委員	<p>先ほどの6つの意見について、教育委員会の回答は分かったが、もう少し具体的に回答してほしい。例えば、対象となる安詳小学校、詳徳小学校、つつじヶ丘小学校、南つつじヶ丘小学校の大規模改修までのトイレ改修や空調整備など、小学校に関する内容で、今年度や来年度どのような環境整備をする予定なのか。</p>
事務局	<p>中学校については、昨年度に空調整備を5中学校で実施した。小学校は、今年度は安詳小学校、詳徳小学校、亀岡小学校の3校の整備を予定している。東輝・詳徳中学校ブロックの残りの小学校についても、次年度以降の早い段階で整備を行っていきたくと考えている。トイレ改修については、大井小学校、城西小学校、つつじヶ丘小学校の3校で昨年度から取り組んでいる。今年度は、引き続き、残るトイレの改修を行っている。中学校は、詳徳中学校のトイレ改修の実施設計を行っており、次年度以降の早い段階での実施につなげていきたい。</p>
教育長	<p>通学区域の見直しを実施していることから、亀岡中学校、東輝中学校、詳徳中学校のブロックの学校を出来る限り同じ教育環境になるように、トイレや空調</p>

	の整備を優先的に進めていきたい。
委員	資料1において、平成32年4月から実施しようとしていることはわかったが、亀岡地区東部の地域については、平成32年4月からの実施を目指しているということか。
事務局	現状では決定していないので、平成32年4月を実施目標として取り組んでいる状況である。
委員	4つの区長から出された要望書の中で、一部の地域が対象から外れたことについて合理的な根拠が示されておらず、正当性や公平性の観点から手続きの妥当性も見出せないとの意見に対する教育委員会の回答が、具体的な回答になっていないのではないか。
事務局	説明会を実施した際に、地域コミュニティの状況、通学距離等についてご意見をいただき、それらを踏まえて検討する中で、現時点で最適と考える校区変更の規模について提示させていただいたものであるが、これまでの住民説明会の中でも説明させていただいた内容でもあることから、ここにまとめた通りである。
委員	説明会で説明してきた内容であるとのことだが、説明会後の3月27日に出されていることから、具体的な説明になっていなかったのではないか。
教育長	この要望書がいつ作成されたかは把握していない。反対の立場から要望書を出されることは聞いていた。これまでの地域説明会では、かなり詳しく説明させていただいてきた。要望書のほとんどの内容について、すでに回答させていただいてきたし、文書でも回答させていただいてきた。そのため、内容をまとめて回答させていただいた。また文書を渡すだけでなく、各区長のお宅へ出向いて口頭で説明するなど丁寧に対応してきた。
委員	資料2に書かれていない地域は、今回の計画について概ね了解されているのか。
事務局	フェスタ区や東・西夕日ヶ丘区などは中学校の通学区域が変わる地域で、反対の意見はいただいている。
教育長	ひばりヶ丘区や森・洗川区では、中学校が東輝中学校から詳徳中学校へ変わることにについては、特に異議はなかったが、小学校が安詳小学校から詳徳小学校に移ることについて、一部国道9号線を通学することが不安であるという意見があった。また、安詳小学校からつつじヶ丘小学校へ移る地域については、通学路の安全確保が大事である。反対意見もあるが一定の理解をいただいたと思

	<p>っている。曙台4丁目については、7区と8区で若干の温度差があるが、通学距離と通学の安全性から考えると7区も8区も何とか理解をしていただいたと考えている。</p>
委員	<p>保護者の立場として、受け入れる学校の準備ができていれば、周りの保護者にも説明がしやすい。先程、施設面の説明をしていただいたが、受け入れる学校として準備はできているか。</p>
座長	<p>教育委員会として、これまでから各小学校・中学校と校区を見直しについて協議を重ねてきた。その中で、前回のブロック協議会で学校長からの発言があったように、学校としては実施が決まればしっかりと受け入れに向けて取り組んでいきたいとのことであった。既に、各行事の実施日の調整を行っていると考えている。今後はより具体的な形で検討いただけると考えている。また学校間での交流等、受け入れの態勢についてもより具体的に進めていただけると考えている。</p>
委員	<p>今年度、安詳小学校は空調整備が実施されるが、夏休み期間に工事が行われるため、実質稼働できるのは平成31年度からであろう。平成32年度の校区が変更された時、つつじヶ丘小学校と南つつじヶ丘小学校にも整備されている計画なのか。</p>
教育長	<p>今年度の事業は、国の平成29年度補正予算による補助金を活用し、平成30年度事業実施という形をとっている。お金があれば当初予算計上して市の単独事業で工事ができるが、それは難しいため、平成30年度の文部科学省の補正予算で補助金がつけば、平成31年度の工事が進められるようにしていきたいと考えている。</p>
委員	<p>そもそも学校規模適正化という考え方は、昔からあったわけではなく、国の制度としてできたもので、教育効果との関連については全部説明できるものではない。昨年度からも小学校の先生方からは、児童の多い少ないではなく、一番大事なのは、子どもが安心して学校に通えることで、保護者や子どもがいろんなわだかまりを引きずっていると、教育を進める上で難しい。その中で、小学校5年生と6年生が選択できることは、学校にとっていいことだと簡単に言えるのか。保護者の要求はあるにしても、子どもを受け入れる学校としてどうなのか。</p>
教育長	<p>昨年度の学校長の意見として1年生から6年生まで移ってほしいという要望があった。一部の子どもだけに移ることは学校が混乱するので、学校としては全員来てほしいということであった。そこに保護者の思いと学校の思いにズレがある。おそらく1年半の間、保護者と子どもの中でどうするかという話合いが</p>

	<p>起こるだろう。例えば、安詳小学校からつつじヶ丘小学校へ移る子どもは、これまでから東輝中学校の校区で、今後も東輝中学校に通うことになる。安詳小学校から東輝中学校へ進学する子どもはつつじヶ丘小学校や南つつじヶ丘小学校から通う子どもに比べて少ないため、早くつつじヶ丘小学校へ移って、友達をたくさん作って中学校生活を楽しくしようと考えるのであれば、5・6年生でもたくさん移るかもしれない。いろいろなことが考えられるので、我々も保護者と一緒に悩みましょうと、先生方にもお願いしていかないといけない。その中で、揺れる子どもや保護者も出てくる。悩む中でカウンセラーが必要であれば配置しないといけないし、どちらにしても子どもたちが安心して通えるような体制をつくらないといけない。私としては、通学の安全を確保して、1年生から6年生まで全員移ってほしい。ただ、保護者からは、残り1年はそのまま通わせたいとか、5年生は従来校に通わせてほしいという声があったので、今の案としてお示しさせていただいている。できる限り1年半の間で、保護者にも理解していただくとともに、多くの子どもの移っていただけるような取組をしていかないといけない。それは学校間交流をしていく中で、友達を作っ新しい学校の修学旅行に行っても楽しめるような、思いが出来るような方向に進めていけるように努力していきたい。</p>
委員	<p>1学級の人数は、45人が40人になり、35人となってきたが、学校に何学級が適正なのかというのは後から出てきたことである。学校は、多くても少なくともうちの学校に来てくれたら良い教育をしますよと一生懸命やっていたので、学校の思いも尊重して欲しい。</p>
委員	<p>前回のブロック協議会では、学校長も平成32年4月の実施に向けて、しっかりと説明をするという話ではあったが、新しい学校長もおられるので、保護者への説明等しっかりとやっていただけるのか、問題が起こった際にしっかりと解決していけるのか聞かせてほしい。</p>
座長	<p>過日、2中学校と4小学校の学校長に集まっいただき、取組経過の確認をさせていただいた。その中でこれまでの学校長からいただいていた御意見や御質問、教育委員会に対する意見についても説明した。また、これまでいただきた御意見等も確認したところである。これからも教育委員会と学校長がしっかりと連携を図り取組を進めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>前任からは、この会議の意義や昨年度末の状況等引継ぎを受けてきた。校長としては、子どもが不安にならないことが大前提で、そのためには、事前の準備が必要である。それは学校間交流だけでなく説明や体験をさせることが必要である。この取組の大きな目標のひとつに小中一貫校がある。小中一貫教育は学校規模によっても、また施設によっても異なる。亀岡川東学園のように施設一体型ならではというものもあれば、大規模校、中規模校で施設が一体でない場</p>

	<p>合のプラス面やマイナス面も整理してきた。東輝中学校は大規模校である。小中一貫校とすることによって今までの小学校と中学校では改善できなかったところや、課題が解消できなかったところをどうやって解消していくか。亀岡川東学園では小中一貫を進めるにあたり、小学校の先生と中学校の先生の考え方が合わないこともあったので、まず東輝中学校ブロックと詳徳中学校ブロックの校長が同じ考えにならないといけない。学習指導内容など学校間で温度差がないように連携を図らなければならない。決まったら確実にその方向に沿って積み上げていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>前任から逐一報告を受けてきた。一時、この計画がすぐに進むのかと思い、どのような面が課題なのか、PTAの課題や施設面での課題等の洗い出しを職員で取組んでいた。そのため、ある程度の柱はできている。学校の規模が中規模から大規模へとなることから組織の動かし方も職員に認識させるように取り組んでいる。市教委とは施設面での取組を協力して確実に進めていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>この2年間の取組については、市教委や前任から話を聞かせていただいた。人数の少ない学校であるが、子どもを受け入れる際に不安を感じながらではなく、移ってきて良かった、うれしかったという言葉がたくさん出てきてくれることを楽しみにしている。登下校の通学路の課題は聞いているし、交通安全対策を保護者と十分に連携して行き、安心して登下校できるような環境づくりをしていきたい。子ども同士は以前から交流していて、遊んでいる実態がある。野球などの社会体育団体でも子ども同士と一緒に楽しんでいると聞いている。そういう意味でも子どもたちが移ってきて良かったという取組をしていきたい。それから小中一貫についても大事にして、しっかりと連携して取り組んでいきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>前任や市教委から説明を受けてきた。その中で学校間交流については工夫して充実したものになるよう取り組んでいきたい。今の時点では、他校の学校だよりを掲示して、保護者が他校の取組をわかってもらえるような取組も行っている。夏休みには4つの小学校で合同研修会を予定している。子どもたちや保護者の不安解消につなげて、教育活動を調整できるところは調整していこうと考えている。小中一貫教育がひとつの目標でもあるが、私自身もとても大事だと思っている。小学校と中学校の間で子ども像のイメージを共有していく場が必要だと思う。さらには地域とも話をして一緒にどんな子どもに育てるのかというイメージを持つことも大事だと思う。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。今後の取組についてもそれぞれの学校長から説明をいただいた。関連するので次第の「3 今後の取組について」、事務局から説明をお願いします。</p> <p>【事務局説明】</p>

座長	「今後の取組について」説明させていただきました。ご意見やご質問はありますか。
委員	児童や保護者の不安解消につながる通学路の整備をできるものから進めていくことが、不安解消を一步前進できるものではないか。教育委員会だけでできるものではないが、国道事務所や京都府等とも協議する必要があるが、子どもたちが安全に通学できる環境整備に取り組んでいる姿勢をみせていくことが大切である。今後の取り組む姿勢として、待つのではなく積極的に動いていくことが大事である。
事務局	市道は土木管理課、国道等は桂川道路整備課、警察は自治防災課の関係各課と交通安全推進会議で連携している。通学路については、説明会でも保護者からの意見が多く、いただいた意見は、すぐに現場を確認し土木管理課とも対策案を検討し、次の説明会で対策案を保護者へ説明してきた。国道事務所や南丹土木事務所とは、定期的に合同点検を実施しており、今年度もできるだけ早く実施し、特に国道を歩くことになるので国道事務所には働きかけを早く行ってきたい。
委員	安詳小学校から詳徳小学校へ変わる子は、過去に大きい事故を経験していることから保護者も非常に慎重になられている。特に国道は歩道が狭い部分があるため、安全対策を考えていくことが非常に大事である。
教育長	国道の南側にもガードレールのない部分もあるし、北側も歩道橋を渡ったところが狭いので、去年から国道事務所にはお願いしており、準備をさせていただいている。一定の答えが出たとなればしっかりと進めていただくようにしていきたい。地域の説明会でも絶対にできるという確約はできないが、必ずさせていただくようお願いしていくという回答はしてきている。
委員	森区・森東区・森宮区・みどりヶ丘区・花水木台区は、中矢田篠線を通って通学されると思うが、交通量が増えていることから子どもたちの安全対策を早急に望まれる。これは市道であるため、すぐにできることはやっていただきたい。
教育長	すでに点検には入っている。保護者や地域の方と一緒に点検したいということから、日程調整を行っているところである。保護者や子どもの目線や事故の起こりやすい場所等地域の声も聞かないと分からないところもある。道路を管理している部署は、従来から安全対策をしているというスタンスであるが、保護者や子ども等と一度点検させていただいて、安全対策をしていきたい。
委員	中矢田篠線は、途中から東つつじヶ丘の子どもや篠町広田の子どもも合流する

	<p>ことになる。今までの安全対策ではなく、人数が増えることも頭に入れながら、きめ細やかな安全対策をお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>今後のスケジュールの中で、平成31年度の半ばに保護者に対して学校区選択の調査をすることになるかと思うが、この頃は次のPTA役員の推薦や選出の時期となる。次の役員になる方が何人減って何人増えるかがわからないということは不安だと思う。おおよその人数を、学校を通じて31年度に入った時期にPTA役員に伝えていただきたい。なぜなら増えるのはいいが、減るとPTAの予算に影響が出てくる。確実に事業に響いてくるので、できるだけ早い段階で伝えいただくことを要望させていただく。</p>
<p>委員</p>	<p>1年半の準備期間は、通学路の安全確保や物品の調整になるが、基本的には子どもたちが安心して通学できるようにするための期間で、混乱がないようしなければならない。5・6年生が選択できることは、いろいろな問題が出てくるのではないか。例えば修学旅行の取組は6年生の4月に入ってからであるし、クラス替えもある。また野外学習はもう少し遅い時期からの取組になるだろう。5年生、6年生まで全員移っていただいても移った学校で修学旅行や野外学習に安心して通えますと保護者に言えるだけの準備を1年半の取組でやりますと言えないようにしないとイケない。保護者の要望は不安があるからで、その不安が払拭できないので選択を認めますと言っていることになるので、もう少し検討したらどうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>保護者の意見は、不安というよりも入学した学校で卒業させてやりたいという思いが強い。5年間通った学校を最後の1年だけ違う学校で卒業させるのは忍びないという思いを多く聞かせていただいた。それは理解できることから選択制とした。教育委員会としては、原則1年生から6年生まで移ってください、その準備はしますと説明してきた。しかし保護者から5年生も残り2年だから残らせてほしいという声も出てきて、それなら5年生まで選択制にしようかと話し合いの中で決めてきた。小学校としては、6年生まで全員移ってほしいという思いは理解している。ただ、保護者や高学年となった子どもの学校に対しての思いも持っているだろうから、そういう思いを踏みにじてまでやるのではなく、選択とさせていただいた。全員移ってほしいという思いは持っている。引き続き学校の取組の中で、新しい学校に行っても大丈夫だという思いを持ってもらえるようにしたい。保護者に理解していただくための選択制である。</p>
<p>委員</p>	<p>修学旅行や野外学習だけの理由ではなくて、入学した学校で卒業させたいという気持ちもわからなくもない。ただ校区変更というのは途中で変わるものである。どこかで線を引いてほしい。</p>

委員	<p>通学路の整備については、教育委員会がしっかり責任を持ってやっていただきたい。市道については積極的に取り組んで欲しい。教育委員会だけでなく、地元自治会も子どもの通学路の安全を確保していくという思いを持ってPTAと一体となって責任を持って取り組んでほしい。</p>
委員	<p>基本的には学校の校区変更に伴うものであるから、通学路の整備は、教育委員会が責任を持って前捌きをして取り組んでいただかないといけない。その中で自治会の応援体制を要するのであれば協力していきたい。</p>
委員	<p>人事異動等で学校長がかわった。心配していたのはしっかりと引継ぎができたのかという点である。それについては何名かの学校長は理解されていると感じた。ただ、納得までされているかなという一抹の不安もある。学校間の交流や地域の連携や通学路の安全対策についての認識が、自治会にしても教育委員会にしてもペーパー上の認識でしかないのではないか。大切なことは子どもにとって幸せな学校生活を送っていただけのように足元を固めていかないといけない。すみやかにできることを具体化して実行していただきたい。</p>
座長	<p>ありがとうございます。教育委員会と学校が再度連携を図り、事前準備を確実に進め、子どもたちや保護者の不安や負担軽減を図っていきたい。施設の整備や通学路の整備もできるところから進めていかなければならないと考えている。今後も教育委員会と学校が、地域の皆様の御理解と御協力をいただく中で取り組んでいきたい。これで会議を閉じさせていただく。</p> <p>(会議終了)</p>